

## 研修テーマ「つながり合い 学び合う 子どもたちの育成」

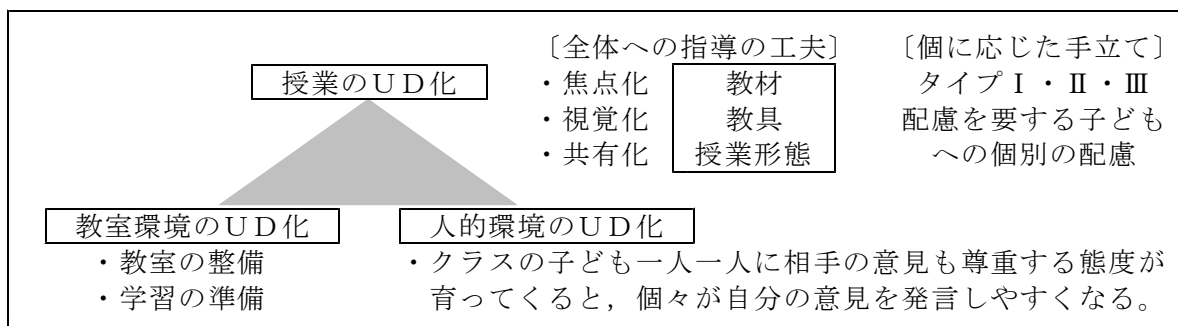
いいひがしプロジェクト研究会・八東地域教育研究会

- 1 開催日時 平成28年2月9日（火）14:00～16:45
- 2 開催場所 鳥取市立修立小学校
- 3 アドバイザー 星槎大学 阿部利彦 准教授
- 4 修立小学校の研究に対する指導助言
  - ・「修立スタンダード」を作成された方がよい。
  - ・山場のもち方は、理解度や子どもの育ち（時期）に応じて違ってよい。  
<ワイルドUD>  
5分ごとにひきつけてそろえていく「波状攻撃型」（小さな山場を小分け）  
<集中できるようになってきたら>  
ドカーンと大きな山場を後半にもってくる  
**しぼりつける「しかけ」→ 生かしていく「しかけ」**
- 5 講演「教育のユニバーサルデザイン 授業、教室環境、人的環境のUD」

**教育のユニバーサルデザインとは、より多くの子ども達にとって  
分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザイン**

「どの子どもできた・わかった」は神業であり、到底無理である。  
一人でもうまくいったら、それを喜びに変えて楽しく工夫する。

### ○子どもを支える3つのUD



- ・授業のUD化はパターン化でもルーチン化でもない。  
様々なバリエーションが増えていくもので、クリエイティブな授業づくりである。

○児童の集中を途切れさせないために、次のような授業の技を提案された。

ひきつける⇒むすびつける⇒方向づける⇒そろえる⇒わかったと実感させる

### 【ひきつける】

児童の注意をひきつけるような「視覚化」である。  
見る必要感があるものを、見せ方に工夫しながら提示する。

①アップにする ②ルーズにする ③ブラインドをかける ④ダウトを入れる。

一度に扱う子どもの考えは1つだけ。黒板上にいくつもの考えを同時に張り出さないこと。  
1つの考えを深く解釈することによって、自分の考えとの相違点や類似点を意識する。  
絵や写真の情報が多いと、ポイントがつかめないので必要な情報を選択できない。

### 【むすびつける】

「ぼく・わたし知ってる！」という興味のスイッチを入れる

- ①子どもの関心がある分野、得意な分野にむすびつける。
- ②今まで学習したことや、子どもが知っていることとむすびつける
- ③子どもが発した言葉を使ってむすびつける

### 【方向づける】

焦点化していくこと。焦点化とは、子どもたちを戸惑わせないことである。  
(考えること・悩むこと≠戸惑うこと)

子どもがまちがえたときに誤答を価値づけ、まちがいを分析する思考を育てる。

子どものまちがいは宝の山

### 【そろえる】

授業の中で「おいていかれる」子どもを作らないように、皆の理解をそろえる工夫。

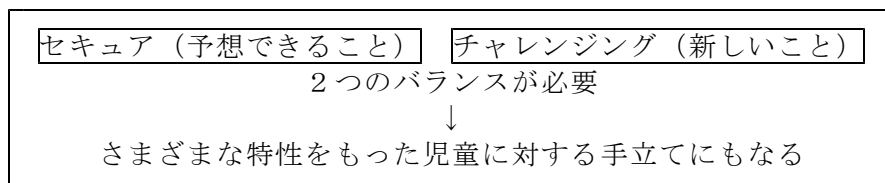
- ①スタートラインをそろえる … 全員にとって難しい/全員が答えられる
  - ②イメージをそろえる … 挿絵・写真・動画・動作化・劇化
  - ③思考過程をそろえる … ペアで学習
  - ④すっきり感でそろえる… 発表の途中ストップ・バトンタッチ (思考リレー)
- ※友だちの意見を聞きたくなる工夫をする

### 【わかったと実感させる】

みんなの力ってすごい！ 連帯感が重要。

「わからない」「できない」が正直に話せるクラス

○授業の「ワクワク感ドキドキ感」を生み出すためには



阿部先生がここ10年間、全国の小中学校で年間200～250本の授業参観をされた上で、研究者としての立場から提案された内容は、参加者にとって非常に共感できるものであった。特に、集中力が極端に短い、ADHD傾向の児童への手立てを「ワイルドUD」と名付けて、波状攻撃のように小さな山を何回も設ける方法は、本校の実態にも合っていると実感し、有効な手立ての1つだと納得できた。「焦点化・視覚化・共有化の3視点」「山場20分」に必ずしもこだわるのではなく、目の前の児童の実態に応じた授業の流れを柔軟に考えていくことが大切だとわかった。つまり、UD授業はパターン化やルーチン化ではなく、教師一人一人の創造的な授業づくりであることを確認することができた。

また、授業づくり以外の教室環境・人的環境についての考え方や取り組み方もわかり、3つのUD化すべての必要性がわかった。そして、小さな児童の変容を喜びに変えて、楽しみながら実践していくことができるように背中を押していただいた温かく充実した研修会であった。